



ウクライナの状況などを語るビクトリアさん
(左、世羅町で)

ウクライナ女性 戦争や現状語る

世羅中が特別授業

世羅町立世羅中学校は4日、ロシアによるウクライナ侵略で、福山市に避難した女性から話を聞く特別授業を開いた。生徒約150人が、ウクライナの現状や戦争について考えた。

講師に招かれたのは2022年3月にウクライナ南部のミコライウ州から家族3人で避難してきたビクトリア・カトリツキさん(24)。母親のタチアナさんは7月に帰国し、まもなく2歳になる娘のソフィアちゃんと2人暮らし。

特別授業では、一問一答形式で生徒らが「日本に来て驚いたことは」「戦争が始まって大変だったことは」などを英語で質問。ビクトリアさんは「来たときは日本語がわからず、買い物もできなかった」「いまは平和で安全な毎日。娘も慣れてきた」などと丁寧に答えていた。

最後に生徒会役員で3年の下村碧君がお礼の言葉を述べ、ビクトリアさんに花束とプレゼントを贈った。1年の秀浦遥人君は「とても勇気のある人と思った。戦争がなくなればいいの」と話した。